

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者主体の取り組みにより、4年目となる事業所では多くの利用者が現在に至るまで利用を継続しています
	内容	居室には、テレビ、テーブル、ベッド、エアコンなどが備えられ、中から鍵のかけられる個室が提供されています。また、共有スペースの部屋では、他の利用者や職員と共に食事を摂るダイニングとソファー、テレビが備えられています。ゲームやDVDなど利用者は各自で好きなものを持ち込んで利用したり、自居室や共有スペースを行き来して職員や他の利用者と交流したりと、思い思いに過ごしています。利用者主体の過ごし方ができる環境作りの取り組みにより、開設当初からの多くの利用者が現在に至るまで利用を継続しており、成果として表れています。
2	タイトル	ただ単なる短期入所サービスの提供という面だけではなく、利用者が望む目標に向かっての支援という形でのサービス提供を行っています
	内容	当事業所では、ただ単なる障害を持った利用者への宿泊等の提供というだけではなく、将来その利用者がどのように生活をしたいのかという目標に向かってのサービス提供という観点での事業の考え方も持っています。将来グループホームや入所系の施設に入りたいと考えているとか、家族に何かあった場合を考えて今の生活を離れて宿泊を重ねて慣れていくみたいと思っている利用者に、サービスを提供し、その目標に向かっての支援を行うようにしております、利用者の内、約2年間の準備の結果グループホームへ入所された方もいます。
3	タイトル	限られた定員数のため、利用者が公平に短期入所を利用することができる体制を構築しています。
	内容	当事業所は、グループホームに併設されているため、定員数が2名と決して多くはありません。一方で一度利用した方は、リピートする方がほとんどです。事業所では、利用を希望するすべての方が公平に利用できるよう、1泊2日をコンスタントに利用できる体制を敷いています。利用者の宿泊スケジュールはひと月ごとの一覧表に予定日を記録し、漏れなどがないように管理しています。利用者は固定化されており、新規の利用はなかなか難しい面もありますが、短期入所サービスへの理解を進めるためにも、見学などには快く応じています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	専門職による根拠に基づいた支援の実現のためにも、支援方針の明確化の検討が期待されます
	内容	今年度は、支援の充実化の方針を事業計画に位置付けて取り組んでいます。一方、短期入所では個別支援計画書は義務付けられていないことから、利用日の計画のみで、支援の方針として計画や目標は立てられていないようです。人員配置は一名のローテーション制となっており、全体の把握と調整、指導をコーディネーターが行なっていますが、2か月に一度の利用頻度に加え、複数の職員が一貫した支援を提供するためには、工夫が求められるものと考えられます。専門職による根拠に基づいた支援の実現のためにも、支援方針の明確化の検討が期待されます。
2	タイトル	短期入所としてのサービス提供に対する考え方への共通認識を図るための仕組みづくりの構築が期待されます
	内容	当事業所は、グループホームとの併設型の短期入所ですので、職員配置もグループホームとの兼務職員となっています。短期入所内の職員間の情報共有は引継ぎファイルやケース記録、支援上の留意点の記録等で行っています。さらに、コーディネーター職員が申し送りをしていますが、職員からは個別の利用者への具体的な支援方法について共通理解の確認を行いたいとの意見がありました。なかなか職員全員が集まって話し合いをすることが難しいのが現状のようですので、全職員が支援への共通認識を図るための仕組みづくりの構築が期待されます。
3	タイトル	事故や災害対策に対する職員意識の啓発と災害や緊急時の利用者、職員の食料品や飲料水の確保等早急の対応が望れます
	内容	リスクマネジメントに関しては、事故によるリスクを中心課題に考えてますが、ヒヤリハットについては報告書として挙がってくることが少なく課題となっており、事業継続計画(BCP)も法人全体での策定と共に事業所としてのバージョンも策定を行って職員には伝えられていますが、意識として定着するには至っていません。また災害や緊急時に必要な利用者、職員の食料品や飲料水の確保も課題として残っており、早急の対応が望れます。